



いのちの授業だより

令和 2年 2月
妻沼東中・保健室

2月18日(火)に1年生の生徒と保護者の方を対象に「いのちの授業」を行いました。NPO法人くまがやピンクリボンの会の皆様をお招きして、ご講演をいただきました。ピンクリボンやがんの話、実際にがんを経験された方の話、小児がんで娘さんを亡くされたお母さんの話など、みなさん真剣に聞いていました。



～生徒の感想～

○家族に「がん検診」を受けるよう、よく話そうと思いました。これからは1日1日、毎日を大切に生きようと思います。生きていることは“奇跡”なのだと実感しました。

○がんになった人が差別されていることを知ったので、「サバイバー差別」をなくしていきたいと思いました。

○もし僕ががんにかかっても笑顔でいたいと思います。また今度のいのちの授業を受けることができれば、新しいことを知りたいです。がん対策のために、毎日笑顔でいたいと思います。

○改めて1日1日の大切さ、健康でいられることがどれだけ大切なのかがわかりました。今日習ったことを生かして、今後の学校生活を毎日大切に送ってみたいです。

○定期的ながん検診を受け、早期発見すれば早く治療することができ、命を落とさずにすむことを知り、大人になったら定期的に検診を受けようと思いました。

○小児がんの子が亡くなってしまった話を聞いて、私よりも幼く、小学校1年生という若さで病気と戦ったというのはかっこよかったです。



○いつか自分もがんになるかもしれないし、今、私がこうして元気に暮らしているのも当たり前じゃないので、今、生きていることに感謝して暮らしていきたいです。

○今回の話を聞いて、本当のつらさがわかるのは本人だけだけど、その人に寄り添って支えていくことが私たちには大切なんだということを知ることができました。今日の話は家族にも話したいと思います。

○がんは良くない病気だと思いましたが、この授業を通して、治ったあとは“いのち”について真剣に考えられるようになる病気だということがわかりました。



GORO

○がんは見つかれば死んでしまうと思っていて、大人になっても検診には行きたくないと思っていました。しかし、授業を受けて絶対に受けようと思いました。これからは、当たり前の1日を奇跡だと思って、亡くなった人の分も生きたいです。